

国語

第1問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

その翌日、朝早くエルサレムを発った私たちは、清々しく広がる四月の青空の下をセルヴィス（都市間を走る長距離タクシー）で西岸北部の街、ジェニーンを目指した。イスラエル軍がジェニーン難民キャンプから撤退したのは、そのほんの数日前のことだった。途中、いくつもイスラエル軍の検問所があり、その都度、パスポートの提示を求められた。検問にあたっているのは、兵役についている十八、九の若者たちだ。時に片言の英語もおぼつかない者もいる。兵士の一人がパスポートをチェックしているあいだ、もう一人が窓の向こうから M16の銃口を私たちに向けて身構えている。

ジェニーンの街の外れに着いたのは九時ごろだった。空は A。タクシーを降り、難民キャンプを目指して歩く。道の両脇一面に畑が広がる。一軒の家の前で遊んでいたよちよち歩きの幼い男の子に名前を訊ねる。「サイフッディーン（信仰の剣）」、傍らにいた若い父親が答える。

難民キャンプに入って最初に目に飛び込んできたのは、ある店の軒先に貼られた幼い少女の亡骸のポスターだった。イスラエルのミサイルに殺された少女の写真の傍らに「シオニストの犯罪」とアラビア語で印刷されていた。

パレスチナ救急医療協会（PMRS）の事務所を訪ねると、赤い新月と十字が組み合わさった PMRS のロゴマークのついたゼッケンを身に着けた二人の青年に出会った。PMRS のボランティアとしてキャンプで救助活動にあたっているジェニーンの街の青年だった。キャンプを取材したいと告げると、「分かった、ぼくたちに任せてくれ」と案内を買って出てくれた。

その二人、サーミーとアハメドに案内されて、三、四階建ての灰色の建物がひしめくキャンプの狭い路地を中心部へと向かう。進むほどに、B。すれ違いざまにひとりの男性が、「あそこを見ろ」と言って上のほうを指さす。見上げると二階のバルコニー部分に、自転車のようなものが展示するように置かれていた。「虐殺の証拠だ」と男性が言った。目を凝らしてよく見ると、ペしゃん

こになっていたために自転車のように見えたそれは車椅子だった。脳性麻痺の息子がまだ屋内にいるのだと、青年の両親は迫りくるイスラエル軍のブルドーザーに訴えたが、ブルドーザーは情け容赦なく車椅子の息子もろとも家を瓦礫にしたのだという。

半壊の家々が全壊の建物に代わり、そして突然、視界が開ける。それまで灰色だった世界に四月の陽光が眩しく降り注ぎ、青空が広がる。キャンプ中央部、三階建て、四階建ての住居が隙間なく建ち並んでいたはずのそこは、ブルドーザーによって徹底的に破壊され、200メートル四方にわたって瓦礫の山、いや、土砂の海と化していた。ブルドーザーの操縦士は、連中にサッカー場を造ってやったのさ、と嘯いた。家族とともに、日々、営々と積み重ねてきた暮らし、人生のすべてが、瓦礫の堆積と化していた。天災か、人為的な破壊かの違いはあるけれど、そこで起きたのは、2011年3月11日、東日本大震災で巨大津波の被災者の人々が見舞われたのと同じ出来事だ。土砂の中からマットレスや家財道具を掘り返して、運んでいる人々がいる。

15年がたった今も鮮明に思い出すのは、土砂の海の上に広がる四月の青い空だ。その、あまりの場違いさのゆえに。地上でこんな破壊が、こんな暴力が生起しているのに、なぜ、空はこんなにも晴れ渡り、こんなにも美しいのか。それは、出来事の不条理そのものの象徴のように思われた。

少し高台になっている土砂の海のほとりで、日除け代わりに張った毛布の下に三人の男性が虚空を見つめて無言で座っていた。ビラル・ダマジユさんとその弟たちだった。⁽¹⁾「ここに私たちの三階建ての家があったんだよ」、ビラルさんが前方を指さして言った。何もないその空間を見下ろすと、土砂の海の底に金属製のおたまが一つ、転がっているのが見えた。

ビラルさんによれば、キャンプに侵攻したイスラエル軍は化学兵器も使ったという。ビラルさん自身が呼吸困難に陥り、^{けいれん}痙攣して昏倒した。また、自爆攻撃を警戒するイスラエル兵は、キャンプの男性たちにダイナマイト・ベルトを腹に巻いていないか確かめるために、上着をまくりあげるよう命じるが、腰痛用のコルセットをしていた男性が、それをダイナマイト・ベルトと誤解され、その場で射殺されたとも語った。聾者の男性が、イスラエル兵の「止まれ」という声が

聞こえずに歩き続けて、射殺されたというケースもある。

70歳になるビラールさんのお父さんは、かつてハイファで仕事をしてきたが、20歳の頃、ナクバ*で故郷を追われ、無一文の難民となって西岸にやって来た。 C , 半世紀を経て、今また、彼はすべてを奪われてしまった。

ビラールさんの三階建ての家……。故郷を追われ、難民となってジェニンに流れついた若者が、結婚し、キャンプに家を建て、子をなし、やがて長男が結婚すれば屋上に長男夫婦の部屋を建て増し、次男が結婚すれば同様に三階部分を建て増して、孫たちも生まれ……。難民二世としてキャンプで生を受けたビラールさんも自分が生まれ育ったその家で、結婚し、所帯をもち、家具をひとつ、またひとつと買い揃えていただろう、夫婦の寝台、リビングのソファ、ダイニングテーブル、カップボード……。そこには半世紀にわたる家族の歴史や思い出が刻まれると同時に、 D 。家とは、ただ雨露しのぐだけの箱ではない。とりわけ祖国を奪われ、故郷をもたない難民たちにとっては。難民キャンプとそこにある家こそ、彼らのホームだった。そのホームがいま、キャンプもろとも土砂の海となってしまった。

ビラールさんと話をしていると、彼の末の弟がやって来た。みなの小腹を満たすためだろう、小さなビスケットの包みを手にしている。予想外の客人在るのに気づいた彼は、一瞬の躊躇ちゅうちよもなく持っていたビスケットを私たちに勧めた。私(ウ)たちは固辞した。受け取れるはずがない。だが、同胞であるサーミーとアハメドの固辞は聞き入れられたものの、異国から来た客人たちの遠慮は聞き入れられず、私たちはありがたくビスケットを一枚ずつ頂戴することになった。「お茶も出せず申し訳ない」、ビラールさんが言う。

別れ際、ビラールさんが言った、私はもう何も怖くない。失うものなど、もはや何もないのだから、と。そして最後にこうつけ加えた、こんな状況ではなく、あなたたちに出会いたかった、と。

土砂の海のほitori、半壊になった家々のあいだを歩いていると突然、石鱈けんの香りが鼻孔を刺激した。角を曲がると、洗ったばかりの洗濯物が軒先に所狭しと干してあった。昼餉ひるけの準備をしているのだろう、どこからか美味しそうな匂いも

漂ってくる。家を破壊されようと、家族を殺されようと、男たちが瓦礫の傍らで茫然自失しているときにも女たちは、いま、生きている子どもたちのために、家族のために、^(エ)食事をづくり洗濯をしていた。何があろうと、“The life is going on”それでも人生は続いていくのだから……。それでも続いていくその生は、例外状況のなかで《 E 》を生きる女たちによって支えられていた。ずっとそうだったにちがいない、ナクバからずっと。

キャンプの外れに、簡易テントが何列にもわたって並んでいた。イスラエル軍の撤退後ただちに、国連が搬入したものだ。家を破壊された人々がここで生活していた。そのときだった。「アッラーホ・アクバル（神は偉大なり）！アッラーホ・アクバル！」と叫ぶ少年たちの野太い声がした。振り返ると、十二、三歳の少年たち六、七人が、イスラエル軍が打ち捨てていった担架だろうか、そこに仲間の一人を載せ、肩に担いで、大声で神の名を唱えながら行進している。「葬式ごっこ」だ。少年たちは突然、担いでいた担架を地面に乱暴に叩き落として、痛がる担架の上の友人の姿を見て大笑いしている。その笑い声は暴力的で、殺伐としていた。

子どもたちはこの間、死の直接的な恐怖にさらされていた。目の前で人が殺されるのを目撃した者もいるだろう。そして誰もが、白布や旗にくるまれて担架に載せられた亡骸が、男たちに担がれて「アッラーホ・アクバル」の掛け声とともに墓地へ運ばれてゆくのを幾度となく目にしたに違いない。少年たちの「葬式ごっこ」はその光景の再現だった。「死」を軽んじ、「死」を弄ぶ。そうすることで、死に対する恐怖を否定するのだ。滲み出る暴力性は、少年たちの抑圧された恐怖の大きさを物語っている。

そんな殺伐とした少年たちの傷を垣間見たこともあり、サーミーたちに案内されて訪れた国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）が運営する学校の校庭で、小学生の子らが屈託なくサッカーに興じているのを目にしたときは、ほっとした。校庭の隅で子どもたちのサッカーを眺めていると、一人の男の子が^(オ)ファラーフェルのサンドイッチを買ってきて、私たちに一枚ずつくれた。サーミーが小銭をやって、私たちのために買いに行かせたのだ。

ちょうどこの日、イスラエル軍の侵攻で閉鎖されていた学校が再開した。水色

の制服に身を包んだ幼い少女たちが級友との再会を喜び合いながら、賑やかに登校していた。サーミーに気づいた少女たちが歓声をあげ、彼に手を振る。「人気者ね」と言うと、「ぼくは子どもたちのアイドルだからね」と言う。聞けば、数日前、ジェニーの街の青年団の仲間とともに学校を訪れたのだそうだ。

「今、この子たちに必要なのは何よりも「笑い」だと思ってね。子どもたちのために芝居をやったんだよ」。

「どんなお芝居？」

「たとえばドナルドダックとか」，そう言ってサーミーは「グワッグワッグワッ」とアヒルの鳴きまねをしてみせた。

三時近くになり，そろそろエルサレムへ戻らねばならない時刻だった。ところがアハメドが「君たちはまだお昼も食べていないじゃないか。昼ご飯も食べずに帰すわけにはいかないよ」と言う。ここでもまた，異国の客人たちの遠慮は聞き入れられず，私たちはアハメドの家に呼ばれ，彼のお母さんや妹といっしょにお昼ご飯をいただくことになった。急に押しかけた三人の外国人を，お母さんも妹も温かく歓迎してくれて，ほんとうは自分たち家族のために準備したお昼ご飯であろうに，私たちにふるまってくれて，帰り際には手土産まで持たせ，セルヴィス乗り場まで見送ってくれた。

その日の夕方，西エルサレムにあるイスラエルの首相官邸前の交差点で，イスラエルの侵攻に反対する市民による抗議デモがあり，私も参加した。傍らに立っていた長身の青年に話しかけると，スペイン人だという。青年はスペインの人形劇団の一員で，イスラエルで開催中の人形劇フェスティバルに参加するためにやって来たのだが，現地に来て，占領下で進行中の事態を知り，これはのんきに人形劇などやっている場合ではないと，一人，劇団を抜けてエルサレムに来たのだった。

この地のあちら側——占領下——では，幼い子どもがミサイルで殺され，脳性麻痺の息子が瓦礫の中に生き埋めにされ，何百もの家族が家を破壊され，半世紀をかけて築いてきた人生の一切合切が土砂と鉄筋のごみの山にされている。その同じ土地のこちら側では，あたかもそんな現実など存在しないかのように，あるいは

F

 かのようには，世界の人形劇フェスティバルが開催されている。

たしかに、人形劇などやっている場合ではない。でも、と私は思う——サーミーのことばを思い出して——、こんな時だからこそ、ジェニーン難民キャンプのあの子たちは、世界の誰よりも今、自分たちのために人形劇をしてくれる人を必要としているのではないか、と。

*ナクバ・・・1948年のイスラエル建国により、多くのパレスチナ人が迫害を受けて故郷を追われ、難民となった悲劇のこと。

(出典) 岡真理『ガザに地下鉄が走る日』みすず書房、2018年。ただし、出題のために一部変更した。

問1 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 少し雲が出てきた
- ② 今にも雨が降り出しそうなほどに暗い
- ③ 眩しい陽光に照らされてさらに光り輝いている
- ④ 気持ちよく晴れ渡っている
- ⑤ 砂ぼこりのせいですっかり霞んでしまっている
- ⑥ 次第に青色から灰色に変わってきた

問2 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 建ち並ぶ家々は侵攻の傷痕を深めていく
- ② 当時の悲惨な記憶が鮮明によみがえってくる
- ③ 道が細くなり進むのもままならない
- ④ 家々が建て込んで次第に空が見えなくなっていく
- ⑤ 通りを行き交う人々の表情が険しくなっていく
- ⑥ 人通りが少なくなり治安が悪化していく

問3 下線部(ア)の説明として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 3

- ① イスラエルの攻撃によってパレスチナ人のイスラエルに対する憎悪が増大し、紛争解決の糸口が見えず世界情勢がさらに混迷を深めていること。
- ② イスラエルの攻撃によってパレスチナ人が住む土地や建物が徹底的に破壊され、苦勞して築いた資産が一瞬で失われてしまったこと。
- ③ 難民として厳しい暮らしを続けてきたパレスチナ人の生活が、イスラエルの攻撃を受けて再び根底から破壊され、さらに絶望的な状態に陥っていること。
- ④ 一方的にパレスチナの土地や建物を破壊したイスラエル人が「サッカー場を造ってやった」などと言い放ち、パレスチナ人をさらに精神的に追い詰めようとしていること。
- ⑤ パレスチナで起こっている殺りくや破壊について、他国ではイスラエル寄りの報道が多く、現地の悲惨な状況がなかなか世界中の人々に伝わらないこと。
- ⑥ パレスチナで非人道的な攻撃を繰り返しているにも関わらず、イスラエルが自らの行為を正当化し、さらなる攻撃によって領土を拡大しようとしていること。

問4 下線部(イ)の語の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 4

- ① 何もない空間
- ② 破壊された空間
- ③ 廃墟と化した土地
- ④ どの国にも属さない土地
- ⑤ 果てしなく広がる大空
- ⑥ 実体のない空間

問5 空欄 C にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

5

- ① しかし
- ② やがて
- ③ ところで
- ④ そして
- ⑤ ようやく
- ⑥ よもや

問6 空欄 D にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

6

- ① パレスチナの人々の悲しい記憶が刻まれている
- ② イスラエルに対する激しい憎悪の記憶が刻まれている
- ③ 豊かな生活を夢見る、彼らの物への執着心が反映されている
- ④ 先祖を敬い子孫繁栄を願う、彼らの宗教観が反映されている
- ⑤ 未来への漠然とした不安も抱いていただろう
- ⑥ 未来の夢もまた育まれていたはずだ

問7 下線部(ウ)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 7

- ① 子どもの楽しみであるお菓子を大人が奪ってしまうのは良くないから。
- ② 不衛生な環境でお菓子を食べるのは気が進まなかったから。
- ③ 悲惨な環境を生きる難民から食べものをもらうことが申し訳なかったから。
- ④ アポイントも取らずいきなり難民キャンプを訪ねて行ったから。
- ⑤ 同胞ではなくイスラエルから日帰りで来た日本人だったから。
- ⑥ 難民キャンプを視察しただけで彼らに何の施しもしていなかったから。

問8 下線部(エ)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 8

- ① あることに心を奪われて気が抜けたようにぼんやりしてしまうこと。
- ② あることに心を奪われて見境なく反社会的な行動をしてしまうこと。
- ③ あることに心を奪われて心身に不調をきたすこと。
- ④ あっけにとられて気が抜けたようにぼんやりしてしまうこと。
- ⑤ あっけにとられて見境なく反社会的な行動をしてしまうこと。
- ⑥ あっけにとられて心身に不調をきたすこと。

問9 空欄 E にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

9

- ① 占領下 ② 日常 ③ 土砂の海
④ ホーム ⑤ 苦難の道 ⑥ 明日

問10 下線部(オ)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 10

- ① 国連の援助で学校がいち早く再開されていることを確認できたから。
② 悲惨な状況下でも子どもは子どもらしくのびのびと遊んでいたから。
③ サンドイッチをくれた子どもの気づかいが嬉しかったから。
④ 土砂の海の中にも子どもたちがのびのびと遊べる広場があったから。
⑤ 子どもたちが芝居を見て笑顔を取り戻していたから。
⑥ 小学校では「葬式ごっこ」ではなくサッカーが流行っていたから。

問11 空欄 F にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

11

- ① 貧しいパレスチナの人々に自国の豊かさを見せつける
② 貧しいパレスチナの人々からささやかな楽しみを奪う
③ 罪悪感にさいなまれながらも自国の攻撃を正当化する
④ 罪悪感にさいなまれながらも隣人の苦悩から視線をそらす
⑤ 存在したとしてもそれをカムフラージュする
⑥ 存在したとしても自分たちには微塵も関係ない

問12 本文の内容としてより適切なものを、以下から二つ選べ。

12

,

13

(順不同)

- ① 「葬式ごっこ」に興じる少年たちの表情からは、死に対する一種の覚悟のようなものが感じられる。
- ② パレスチナの女性たちは、どんなに苦しい状況下でも、そこで生きていくために淡々と日々の仕事をこなしてきた。
- ③ パレスチナの人々は、異国の客人に対して盛大な歓迎の儀式でもてなししてくれる。
- ④ エルサレムで起こった抗議デモは世界中に波及し、世界各国から参加者が集まって反戦の大きなうねりとなった。
- ⑤ ジェニーンの小学校では、国連のスタッフによって芝居が上演され、彼らは子どもたちの人気者となった。
- ⑥ 難民キャンプに広がる土砂の海は、人為的な破壊によって生み出されたものであるから、東日本大震災の津波被害よりもさらに悲惨である。
- ⑦ 土砂の海の上に広がる美しい青空は、地上で起こっている出来事の悲惨さやその不条理をより際立たせている。
- ⑧ どんなに苦しい状況下でも、パレスチナの子どもたちには、心から笑い合える仲間が必要だ。

第2問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

南アフリカ最大の街ヨハネスブルグから北西に約30キロメートル。都会の喧騒を離れた街の郊外、草原と灌木が広がる丘陵地帯の向こうに、目指す場所がありました。スワルトクランス洞窟。人類進化の研究において重要な発見のあった洞窟のひとつで、世界遺産にも登録されている貴重な遺跡です。ここに人類と火の関係を暗示する、興味深い痕跡が残されています。

スワルトクランス洞窟の最古の堆積層には肉食獣が食べたと考えられる獲物の骨が大量に保存されており、かじられた骨の中には人類の祖先の骨も含まれています。その上の第二層には木炭の層が横たわり、その上の第三層に至ったところで興味深い変化が現れます。第三層から出土した動物の骨からは、火で焼かれた痕跡が多数発見されたのです。骨の出土状況から、それらは野火に焼かれたものではなく、人為的に火が使われた証拠であると考えられています。現存するなかで、世界最古の火の使用の痕跡とされるものです。おおよそ100万年から150万年前のものと推定されています。

興味深いのが、第三層からは出土する骨の比率が逆転している事実です。これまで被食者のひとつとして肉食獣に食べられることもままあった人類の祖先が、第三層からは捕食者へとその立場を変え、洞窟の支配者となったことを示唆しているのです。

火を焚くことによる明かりと熱を嫌って肉食獣は洞窟に近づかなくなり、人類の祖先はわざわざ木に登らずとも地上で夜も安心して眠ることができるようになりました。苦勞して得た食べ物を他の動物たちに横取りされる心配もなくなりました。人類の祖先は火を扱うことを覚えたことで、 を自らに都合のよいように作り変える術を得たのです。こうして人類は、自然界における自らの立場を。人類史上初めて、エネルギー革命と呼ぶべき大きな変化が起きたのです。火の力はそれほどに強力でした。しかし、それは変化の始まりに過ぎなかったのです。

動物としてのヒトの特長をいくつか挙げるよう質問されたならば、皆さんは何と答えるでしょうか。一番に思いつくものは、体格に比較して大きく発達した脳

を持っているというものでしょう。そのほか二足歩行や、言葉を発するなどという声も挙がるかもしれません。しかし、ヒトにはあまり知られていない自慢すべき大きな特長が他にもあります。もちろん、私にもあなたにも備わっている特長です。それが体格に比較して小さい胃腸です。

一般に、脳の維持には多大なエネルギーが必要であることが知られています。しかし、実のところ胃腸もまた、脳と同じく大量のエネルギーを必要とする器官なのです。消化器官は食物を分解し栄養素を吸収するだけでなく、食べ物の残り滓や古くなった細胞を老廃物として外に出すという複雑な活動を一手に引き受けています。胃腸の運転に多大なエネルギーが必要となるのは、至極当然なのです。

ヒトと同程度の体重を持つ哺乳類の多くは、脳の大きさがヒトの五分の一程度であるのに対し、胃腸の長さはヒトの2倍もあります。つまり私たち人類は、相対的に大きな脳と小さな胃腸を持っていることになります。霊長類のなかでの比較でも、体重比で胃腸の小さな霊長類ほど、より大きな脳を持つことが分かっています。^(ア)人類の祖先は、脳が大きくなる方向に進化していく過程で、脳に十分なエネルギーを供給するために、胃腸を小さくし、消化器官のエネルギー消費を減らすことでバランスを取ったのです。

しかし、胃腸を小さくすることにはリスクが伴います。胃腸が小さくなると食べ物の消化が十分にできなくなり、結果として身体に取り込むことができるエネルギーの量が減ってしまうからです。私たちの祖先は、この問題をどのように解決したのでしょうか。

第一に考えられるのが、より栄養価の高い食べ物を取ることです。肉食を始めたことがそれにあたります。霊長類のなかで、人類ほど肉を好んで食べるものはいません。肉食による栄養補給が、人類の祖先の脳を大きくしたことは疑いようがありません。それが火の利用を可能にする知恵を生む知能を、私たちの祖先へもたらしたのでしょうか。そして現生人類へと続く脳の発達ならびに胃腸の縮小は、火の利用をきっかけとして、肉食が始まったことによる変化を遥かに超える地点にまで、さらなる進化を遂げることになります。それは料理の発明によってもたらされたと考えられています。

食べ物を叩き、刻み、すりつぶすなどして加工したうえで、それを加熱処理す

る。それが「料理」です。そう料理を定義すると、料理をすることによる身体への効果が浮かび上がってきます。もうお分かりでしょう。食べ物を料理すると、その吸収に要する胃腸の負担は劇的に軽減されるのです。

まず、食べ物を物理的に加工することで、口での咀嚼^{そしゃく}の負担が軽減されます。次に加熱加工することによって、食べ物は柔らかく、さらに咀嚼しやすい物へと変化します。野生のチンパンジーが1日のうち6時間以上を食べ物を噛むことに費やしていることを考えると、こうした加工による効果は決して少なくありません。さらに決定的な変化をもたらす力が、加熱にはあります。熱はでんぷんやタンパク質を変質させ、食べ物の持つ栄養価を飛躍的に高めることにつながるのです。

こうして人類の祖先は、料理をすることで自らの体内での消化にかかるエネルギー負担を減らし、胃腸を相対的に小さくすることに成功しました。要するに私たちの祖先は、本来であれば消化器官が行う必要のある仕事を、食べ物を「料理」することで、一部外製化したのです。外製化したことで得られた余剰エネルギーは脳へと集中投資され、それが私たちの祖先の進化の方向を決定づけることになりました。このように、私たち現生人類が極めて高度な知能を持つに至ったことには、人類の祖先による火の利用が大いに関係しているのです。

火の利用は、外敵への備えとして機能することで、人類を取り巻く外部環境を劇的に変えただけでなく、人類の身体、すなわち内部の環境をも、進化の過程を通じて徐々に、しかし確実に変化させました。火の利用がすべてを変えたのです。これこそ人類史上最初のエネルギー革命です。

人類の繁栄は、まさにこの瞬間から始まりました。それはまた、Dののちに比類なき文明社会を築くに至った人類が、エネルギーの大量使用がもたらす地球規模での気候変動問題という難問を抱えるに至る出発点でもありました。

現代社会において人類は、化石燃料などから大量のエネルギーを得ることで、自らが作り上げた文明社会を支えています。そうしたエネルギー多消費型の社会を作り上げたのは、高度に発達した私たちの頭脳です。全体重の2.5%を占めるに過ぎない私たちの脳は、体内で消費する基礎代謝（生命維持に必要なエネルギー量）の20%を要求します。一方で平均的な霊長類であれば、基礎代謝の13%

程度を要求するに過ぎません。いかに人類の頭脳が、大量のエネルギーを必要とするまでに進化してきたのかが分かります。

私たち人類が誇る優秀な頭脳は、加熱という形で火の持つエネルギーを間接的に取り込むことで、自然界において生食をすることで許容されうる脳の大きさを遥かに超える大きさにまで肥大化したものです。つまり私たちの脳は本質的に、「より賢くなりたい。そのために、より多くのエネルギーを得たい」と望む傾向があるのです。

ここで人類が生み出した文明社会を俯瞰してみましよう。そこにヒトの脳の本質が現れてはいないでしょうか。エネルギーの消費量を増やしていくことで発展していく社会です。特に産業革命以降の社会は、化石燃料などのエネルギーを自らの身体ではなく機械に「食べさせる」ことで、蒸気機関や自動車を動かし、電気を起こしては電子機器の飛躍的な進歩、発展を実現してきました。最新の大型発電所、すなわち巨大化した人工の胃腸が供給する大量のエネルギーは、情報処理機器、すなわち人工頭脳の技術革新にも積極的に還元され、ついにはヒトの頭脳をも超える人工知能（AI）の実現も目前に迫っているのが現状です。

E。それが、私たちの脳が持つ本性です。そして私たちが作り上げてきた輝かしい文明社会とは、消化可能な食べ物を化石燃料やウラン鉱石にまで広げることで、消化器官を通じて取り込めるエネルギー容量を飛躍的に増やし、脳をさらに巨大化させた化け物のような生き物に思えてきます。それは間違いなく、脳への集中投資を続けてきた人類進化の歴史の延長線上にあるものです。

こうして外部からのエネルギー投入に依存した「脳化」が加速する社会に未来はあるのでしょうか。そのことが今、問われています。それこそが人類と火の関係を紐解くことで浮かび上がってくる、エネルギーにまつわる問題をめぐる根源的な問いではないだろうかとは私は考えています。

(出典) 古舘恒介『エネルギーをめぐる旅 文明の歴史と私たちの未来』英治出版、2021年。ただし、出題のために一部変更した。

問1 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① なかでも ② しかし ③ なぜなら
④ また ⑤ さらに

問2 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 地球 ② 大陸 ③ 環境 ④ 大洋 ⑤ 自然

問3 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 大きく引き上げることに成功しました
② 危ういものにしてしまったのです
③ どうにか維持したのです
④ 神に等しい存在としたのです
⑤ わずかに向上させました

問4 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 数十億年 ② 数億年 ③ 百数十万年
④ 千数百年 ⑤ 数百年

問5 空欄 にあてはまる最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① AI が人間の代わりに働く社会の実現
② 生存競争に勝ち残ること
③ 胃腸の機能をさらに向上させること
④ 際限のないエネルギー獲得への欲求
⑤ 肥大化への強迫観念

問6 下線部(ア)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 19

- ① 胃腸を小さくすれば体重を増やすことなく脳を大きくできるため。
- ② 体重比で脳を大きくするには身体を小さくする必要があったため。
- ③ 大きな脳があれば胃腸に必要なエネルギーを減らすことができるため。
- ④ より多くのエネルギーを脳にまわすことができるため。
- ⑤ 火を利用することによって脳が発達したため。

問7 下線部(イ)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 20

- ① すべての事象についてその理由を深く考えること。
- ② 広い視野で物事を見たり考えたりすること。
- ③ 目の前にあるものを注意深く観察すること。
- ④ 物事の本質を見抜くこと。
- ⑤ 高いところから対象となるものを見つけること。

問8 本文中での「火の利用」がもたらしたものについて明らかに適切でないものを、以下から一つ選べ。 21

- ① 草食から肉食への変化
- ② 他の哺乳類より体重比で大きな脳
- ③ エネルギーを大量に消費する文明社会
- ④ 肉食獣との立場の逆転
- ⑤ 現代の気候変動につながるきっかけ

問9 本文中での「料理」の意義の説明として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 22

- ① 料理は味覚を刺激することによって脳の発達に有効だった。
- ② 料理は多くの時間を必要とするので必ずしも必要ではない。
- ③ 食べ物の種類によっては、料理せずに食べることが望ましい。
- ④ 料理の腕を磨くことは人類の発展に不可欠であった。
- ⑤ 料理は効率的に栄養を吸収するための優れた発明である。

問10 本文の内容としてより適切なものを，以下から二つ選べ。

23

,

24

(順不同)

- ① 洞窟の第二層から人類と肉食獣の立場が変化したことが判明した。
- ② 小さな胃腸はエネルギーを取り込むのに不利である。
- ③ 食べ物の種類によっては生食のほうが適している。
- ④ 産業革命は火の利用を超える重大な出来事であった。
- ⑤ 料理の始まりは産業革命と並ぶほど重大な出来事であった。
- ⑥ 私たちの脳はエネルギーの獲得に貪欲である。
- ⑦ 他の哺乳類の脳の大きさは体重比にしてヒトの半分程度である。
- ⑧ 人類には気候変動を招いた責任があり解決しなければいけない。

第3問 各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを、以下から一つ選べ。

問1 天候にリュウイして登山の計画を立てよう。 25

- ① 敷地の一画に小さな仏塔をコンリュウした。
- ② アルバイト先で退職の申し出をイリュウされた。
- ③ 大地震で地層の一部がリュウキした。
- ④ 大規模な実験装置でソリュウシを観測した。
- ⑤ 忍術のリュウギを後世に伝える。

問2 大量失点した投手が試合途中でコウバンした。 26

- ① ナマハンカな努力では目的を達成できない。
- ② 引越して大きな家具をウンパンした。
- ③ ジュンプウマンパンな一年を過ごした。
- ④ あの先生はスライドを使わずに手書きでバンシヨする。
- ⑤ ヒバンの警察官がコンビニで万引きを目撃した。

問3 大企業だけでなくレイサイ企業でも賃上げが必要だ。 27

- ① ガクレイに達した子供には教育を受けさせるべきだ。
- ② 餅つきは年末のコウレイ行事だ。
- ③ あの人は歌人としてレイメイが高い。
- ④ 山頂の気温はレイカ10度を記録した。
- ⑤ 神社にはレイゲンあらたかな御神体がまつられている。

問4 奨学生に選ばれたのは大変コウエイなことだ。 28

- ① 首相のエイダンによって一触即発の危機が回避された。
- ② 無重力の宇宙空間をユウエイする。
- ③ こんな幸運はミライエイゴウ訪れないだろう。
- ④ 世界では東西リョウジンエイの対立が続いている。
- ⑤ キョエイを張るのは自信のなさの裏返しだ。

問5 大河ドラマの主役に抜擢されたことは役者ミョウリにつきる。 29

- ① ジェット機が爆音を響かせてリリクした。
- ② ウェブサイトの閲覧リレキを消去した。
- ③ ルリ色に光る宝石を手に入れた。
- ④ フクリコウセイが充実している企業に就職したい。
- ⑤ 中国旅行でバンリの長城に登った。

問6 彼のレポートは豊かな教養のヘンリンがうかがわれる内容だった。 30

- ① 戦争によって世界経済は大きくヘンヨウした。
- ② 誰も訪れたことのない世界のヘンキョウを旅する。
- ③ 鏡のハヘンが床に散乱していた。
- ④ 弘法大師の足跡をたどり88箇所を巡礼することを四国ヘンロという。
- ⑤ ヘンサチだけが大学選びの基準ではない。

問7 スマートフォンがフキュウする前の生活には戻れない。 31

- ① 期限付きではなくコウキュウの平和を望んでいる。
- ② 掃除機で小さなゴミをキュウインする。
- ③ 事故の原因をキュウメイすることができた。
- ④ 中学校の卒業式でゴウキュウしてしまった。
- ⑤ 彼はエネルギー問題についてゲンキュウした。

問8 外国のヨウジンを警護する。 32

- ① 報告書のテキヨウを読めばおおよそ理解することができる。
- ② スピーチの際はヨクヨウのある話し方をしよう。
- ③ シュウヨウ人数の大きな会場を予約した。
- ④ ヨウシュンの季節に新年度が始まった。
- ⑤ 酸素は水にヨウカイする。

問9 カンゼンチョウアクの時代劇は安定した人気がある。 33

- ① 友人をサッカー部にカンユウする。
- ② カンセイ葉書の料金が値上げされる。
- ③ 長い物語がついにカンケツした。
- ④ 来年から野球部のカントクを務めることになった。
- ⑤ 部屋にカンヨウ植物を置いている。

問10 会議の場でリロセイゼンとした意見を述べた。 34

- ① ゼンカイの大会で優勝したチームと対戦する。
- ② ゼンコク的に大雨の予報が出ている。
- ③ シゼンの豊かな地域で暮らしている。
- ④ 生産量が昨年よりゼンゾウした。
- ⑤ ゼンシュウの寺で修行した経験がある。